

アンケート調査報告(最終値)

2024 年10月24日

【無作為抽出市民アンケート】

1. 実施の概要

【調査対象】

- ・ 住民基本台帳から無作為抽出により満 15 歳以上の男女 2,500 人を抽出

【調査方法】

- ・ 郵送配布、留置後、郵送又はインターネット上の回答フォームより回収

【調査時期】

- ・ 2024 年6月 14 日(金)～2024 年 7 月 31 日(水)

※7 月 3 日(水)にお礼状兼督促ハガキを送付。

【回収状況】

- ・ 984票／2,500 票（回収率:39.4%）

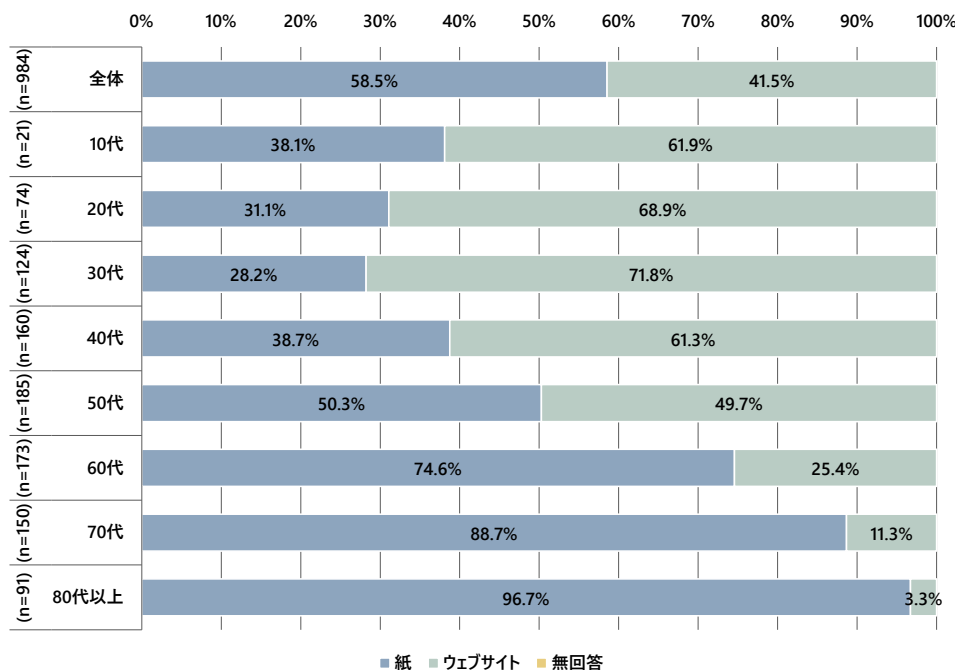
2. 調査結果をみる上での注意事項

- ・ 百分率（%）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
- ・ 本文中の%の小計は、各項目の値を四捨五入した上で足し合わせている。
- ・ 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

3. 調査結果概要

(1) 回答方法

- ・ 年代別の回答方法は以下の通りであり、若年層において WEB からの回答割合が高くなった。【p.2 図表 1】



(2) 回答者属性

- ・ 回答者属性について、女性 59.2%／男性 38.0%となった。【p.6 図表 2】
- ・ 回答者の年齢は 40 代～60 代がボリュームゾーンである。若干ではあるものの令和元年度調査よりも 10 代・40 代・50 代の回答割合が高まった。【p.6～7 図表 4,5】
- ・ 世帯構成は二世帯 43.6%、配偶者・パートナーのみ 30.2%、単身世帯 16.6%の順に割合が高くなった。【p.8 図表 8】就学前の乳幼児がいる家庭は 7.3%、小・中学生がいる家庭は 13.9%、小・中学校卒業後～18 歳未満がいる家庭は 34.2%、65 歳以上の方がいる家庭は 34.2%であった。【p.9 図表 10】
- ・ 回答者の通算居住年数は「30 年以上」が 32.1%と最も高く、令和元年度調査と比較しても高まった（ただし令和 4 年度は「通算居住年数」を回答してほしい旨の注記を加えている）。【p.12 図表 15,16】

(3) 地域との関わり

- ・ 近隣住民との近所づきあいについて、「会えばあいさつをする」の割合が 58.0%と高い。令和元年度調査と比較すると「会えば立ち話をする」の割合が減少し、「会えばあいさつをする」「顔は知っているが、会ってもあいさつをすることは滅多にない」「顔も知らない」の割合が高まっている。【p.15 図表 19,20】
- ・ 「地域」に対して愛着を感じるという割合（「愛着を感じる」「どちらかといえば愛着を感じる」の合計）は 83.5%【p.16 図表 21】、「地域」との関わりについての今後の意向でポジティブな回答（「関わりたい」「どちらかといえば関わりたい」の合計）をした割合は 53.0%であった。これはいずれも令和元年度調査と比較して肯定的回答割合が高まっている。【p.17 図表 23,24】
- ・ 「地域」をより良くするためにあると良いつながりは、「災害時など、いざというときに助け合える」が 77.3%、「日常的に気軽にあいさつや会話ができる」が 63.1%で割合が高く、令和元年度調査と同様の傾向である。【p.18～19 図表 25,26】
- ・ 「地域」をよりよくする観点から自身が関心のあるテーマを尋ねたところ、「災害対策・防災活動」が 62.2%、「地域防犯・治安に関する活動」が 59.6%で特に割合が高い。【p.20 図表 28】

(4) 地域コミュニティ活動への参加状況について

- ・ 地域コミュニティ活動へ「現在参加している」人は 16.7%である。「以前参加していたが今は参加していない」人が 17.3%、「これまで参加したことがない」人が 63.9%で合計 82.2%となった。令和元年度調査では「現在参加している」が 33.2%であり、大幅に減少した。【p.22 図表 30,31】
- ・ 現在参加している人の参加団体は「有志・趣味・自己啓発等のサークル・グループ（26.2%）」や「マンション管理組合（15.9%）」の割合が高く、「（3）地域との関わり」で地域をより良くするために必要という回答の多かった、防災・防犯分野の団体への参加割合は相対的に高くない。ただし、令和元年度調査と比較すると、「有志・趣味・自己啓発等のサークル・グループ（※令和元年度選択肢の「地域の有志のサークル・グループ」と「趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ」をまとめた数字）」「父母会・PTA」の割合が大幅に減少している一方で、「自主防災組織」、「地域社協（福祉の会）」の割合が増加している。【p.23～24 図表 32,33】
- ・ 地域コミュニティ活動に参加したきっかけとしては、「活動内容に関心があった」が 44.5%で最も高く、「知人等に参加を依頼された・誘われた」が 30.5%で次に高くなった。前者の割合は、令和元年

度調査から大きく高まった。【p.25~26 図表 34,35】

- ・ 参加団体における課題として、「メンバーが高齢化している（37.8%）」「メンバーが固定化している（31.1%）」を挙げる割合が高い。これは令和元年度調査と同様の傾向ではあるが、よりパーセンテージが高くなっている。【p.27~28 図表 37,38】
- ・ コロナ禍前と現在で活動が変化したと回答したのは 19.5%で、具体的な内容として活動の減少、活動者の減少や関係性の希薄化、活動における制限の強化（人数や回数等）、活動・運営方法の変化（電子化等）が挙げられた。【p.30 図表 40、p.30~31 自由回答】
- ・ 現在参加していない人の理由については、「参加のきっかけがない（49.2%）」「生活が忙しく時間がない（48.5%）」の割合が高い。【p.32 図表 41】
- ・ 今後新しく地域コミュニティ活動に参加したいかについては（現在の参加有無に限らず全員が回答）、「参加したい」が 42.0%、「参加したくない」が 52.9%であった。【p.33 図表 43】
- ・ 今後参加したい地域コミュニティ活動の団体は（現在の参加有無に限らず全員が回答）、「有志・趣味・自己啓発等のサークル・グループ（50.4%）」や「子ども・若者への支援団体（子ども食堂・おやこひろばなど）（24.5%）」の割合が高い。【p.34 図表 45】
- ・ 地域コミュニティ活動に参加しやすくなるためにあるとよい条件について、「負担が大きくなり参加できる（51.7%）」「参加しやすい曜日や時間帯への配慮がある（38.2%）」の割合が高い。なお令和元年度調査では、2 番目に回答割合が高かったものは「誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある（39.1%）」であった。【p.35 図表 46】

(5) コミュニティセンターについて

- ・ コミュニティセンターの認知度について、「知っており、最寄りのコミュニティセンターもわかる」が 77.3%であり、令和元年度調査の 58.2%から大きく増加している。また、「コミュニティセンターの名前は知っているが、どのような施設であるかわからない」の割合は 12.0%であり、令和元年度調査の 27.1%から大きく減少している。【p.38 図表 49,50】
- ・ コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることを知っている人は 59.8%であり、これは令和元年度調査の 58.2%からほぼ変化がない。【p.39 図表 51,52】
- ・ コミュニティセンターを利用したことがある場合、普段利用する際の人数で多いのは「10~19 人（25.4%）」と「1 人（22.3%）」である。【p.42 図表 56】
- ・ 運営委員又は協力員としてコミュニティセンターの運営に携わったことのある人（現在及び過去も含む）は 7.0%で、うち現在関わっているのは 2.5%にとどまった。【p.43 図表 58】
- ・ コロナ禍前と現在でコミュニティセンターの利用に関して変化があったと回答したのは 12.8%で、具体的な内容として利用回数・人数の減少、利用者層の変化（若い人が参加しない）、活動方法の変化（電子化等）、対策・制限の強化（マスク着用、飲食の制限、人数制限等）、利用自体しなくなった等が挙げられた。【p.44 図表 59、p.45~46 自由回答】
- ・ コミュニティセンターを利用したことがある場合、利用頻度で多いのは「年に 1 回以下（42.3%）」「年に数回程度（35.5%）」である。【p.47 図表 60】
- ・ コミュニティセンターを利用したことがない、あるいはあまり利用していない理由としては、「利用するきっかけがない（66.8%）」「何をやっているか／何ができる施設か知らない（30.1%）」の割合

が高く、特に「利用するきっかけがない」の回答割合が令和元年度の 53.3%から大きく増加している。【p.48~49 図表 61,62】

- ・ コミュニティセンターに求める機能・役割については、「同じ関心を持った人と幅広いつながりができる (37.0%)」「気軽に集える場所がある (34.7%)」「地域のイベントなど、地域の情報を得ることができる (30.9%)」を求める割合が高い。令和元年度は「気軽に集える場所がある」「同じ関心を持った人と幅広いつながりができる」の順で割合が高いが、概ね同様の結果となった。【p.51~52 図表 64,65】
- ・ コミュニティセンターに求める空間や設備として、「予約なしに一人でも過ごせる場所がある (42.3%)」「地域の防災拠点となる場所・設備がある (42.0%)」「大勢の人が集まることができる場所がある (34.3%)」の割合が高い。1 人利用、集団利用いずれも期待されているとうかがえる。【p.54 図表 67】
- ・ コミュニティセンターの運営・企画などに参加したいかを尋ねたところ、「コミュニティセンターの企画・運営には関心がない」が 64.4%で最も高く、令和元年度の 58.4%からやや増加した。【p.57 図表 70,71】

【利用者アンケート】

1. 実施の概要

【調査対象】

- 各コミュニティセンター施設の利用者

【調査方法】

- 各コミュニティセンター施設内で調査票を配布、配布先施設内で回収又はインターネット上の回答フォームより回収

【調査時期】

- 2024 年 6 月 14 日(金)～2024 年 8 月 22 日(木)

※施設改修工事に伴う休館のため、西部コミュニティセンター及び緑町コミュニティセンターは 7 月上旬までの回収となっている。

【回収状況】

- 3,159 票

2. 調査結果を見る上での注意事項

- 各館の詳細な結果は、「資料 1 の 3」の通り。各館の有効回答数は以下のとおりである。【p.5 図表 2】

吉祥寺東	本宿	吉祥寺南町	御殿山	本町	吉祥寺西	吉祥寺北	けやき
272	211	177	206	572	40	121	193
中央	西久保	緑町	八幡町	関前	西部	境南	桜堤
336	267	119	133	202	41	201	68

- 各コミセンでの有効回答数が異なるため、特に数の少ないコミセンの結果の読み取りには留意が必要である。加えて、無作為抽出配布ではないため、回答者の属性に偏りがある場合がある。
- 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数を指す。
- 百分率(%)の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
- 本文中の%の小計は、各項目の値を四捨五入した上で足し合わせている。
- 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

3. 調査結果概要(全体の読み取り)

(1) 回答者属性

- 回答者のうち、女性が 62.4%、男性が 27.4%であった。【p.5 図表 3】また、小学生 1.6%、中学生 1.3%、高校生 3.5%、中学卒業後高校進学していない 10 代 0.9%、20 代 2.7%、30 代 4.9%、40 代 8.8%、50 代 10.4%、60 代 14.4%、70 代 27.1%、80 代以上 14.9%であった。【p.6 図表 5】
- 居住地域は武蔵野市内が 63.9%、武蔵野市外が 26.5%であった。【p.7 図表 7】
- 回答者属性を令和元年度調査と比較すると、居住地について、若干市内の割合が減少し市外の割合が増加しているものの、ほぼ同様の傾向であった。【p.7 図表 9】

(2) コミュニティセンターの利用状況等

- 利用頻度について、「月に 2～3 回(30.3%)」「月に 1 回ぐらい(21.4%)」「年に数回ぐらい(19.6%)」

の割合が高い。令和元年度と比較すると、週に1回以上利用する層が減少し、「今日が初めて」などの利用頻度の少ない利用者が増加している。【p.9 図表 11,12】

- ・ 利用する用件について、「趣味（33.1%）」「会議（30.2%）」「運動（17.3%）」の割合が高い。令和元年度調査と比較して、「会議」「勉強」の割合が増加し、「趣味」や「行事への参加」の割合が減少している。【p.10 図表 13,14】
- ・ 利用人数について、「10～19 人（32.6%）」「6～9 人（30.4%）」の割合が高く、比較的大人数で利用される場合が多い。（※無作為抽出アンケートの傾向と異なるが、これはコミセン団体利用の際に、積極的に利用者アンケートの調査依頼を行っているためではないかと思われる。）【p.11 図表 15】
- ・ コミセン主催・共催の行事に参加したことがある割合は 45.2%と半数程度で、そのうち（他の行事も含めて）また参加したい（「参加したい」「どちらかといえば参加したい」の合計）と答えた割合は 81.1%であった。【p.12,13 図表 16,19】主催・共催の行事に参加したことがある割合は令和元年度の 58.6%から大きく減少している。【p.12 図表 17】
- ・ コミセンが地域住民によって運営されていることを知っている割合は 80.3%であり、無作為抽出市民アンケートと比較して高い。【p.15 図表 21】

(3) コミセンの運営に対する思いやニーズについて(利用者評価)

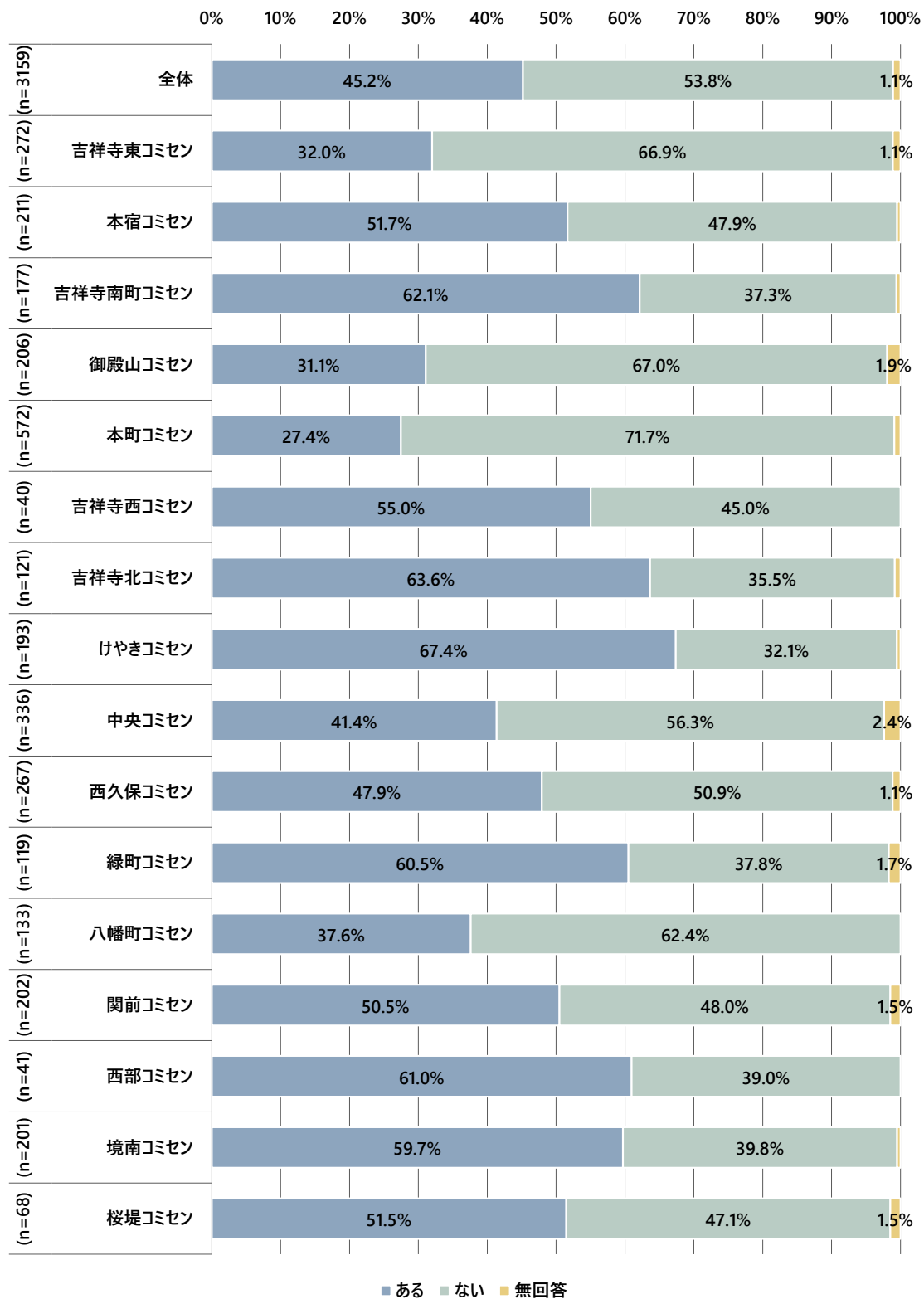
- ・ 以降で、肯定的な評価をしている割合を示す。なお、いずれの設問も「どちらかともいえない」あるいは「普通」をはさんで5段階評価となっている。
 - 窓口では質問、問い合わせなどに適切に対応しているか：適切 59.5%、どちらかといえば適切 22.0% 【p.15 図表 22】
 - 事業内容や利用方法などの情報が伝わっているか：そう感じる 30.0%、どちらかといえばそう感じる 35.2% 【p.16 図表 23】
 - 誰でも公平に利用できるように心がけて運営されていると思うか：そう思う 54.9%、どちらかといえばそう思う 24.8% 【p.17 図表 25】
 - 利用者の意見を行事や運営に反映してくれていると思うか：そう思う 33.5%、どちらかといえばそう思う 32.9% 【p.18 図表 27】
 - 総合的なコミセンの使いごち：よい 52.3%、どちらかといえばよい 20.7% 【p.21 図表 30】
- ・ コミュニティづくりを活発化するために、コミセンがどのような場所であることが望ましいと思うかについて、「同じ関心を持つ人とのつながりができる（49.6%）」「誰もが気軽に集える場所がある（45.1%）」の割合が高い。【p.20 図表 30】

- 令和元年度とは選択肢（尺度）の設定方法が異なるため純粋に比較はできないが、以下参考までに、それぞれの調査における肯定的回答割合の比較を掲載している。

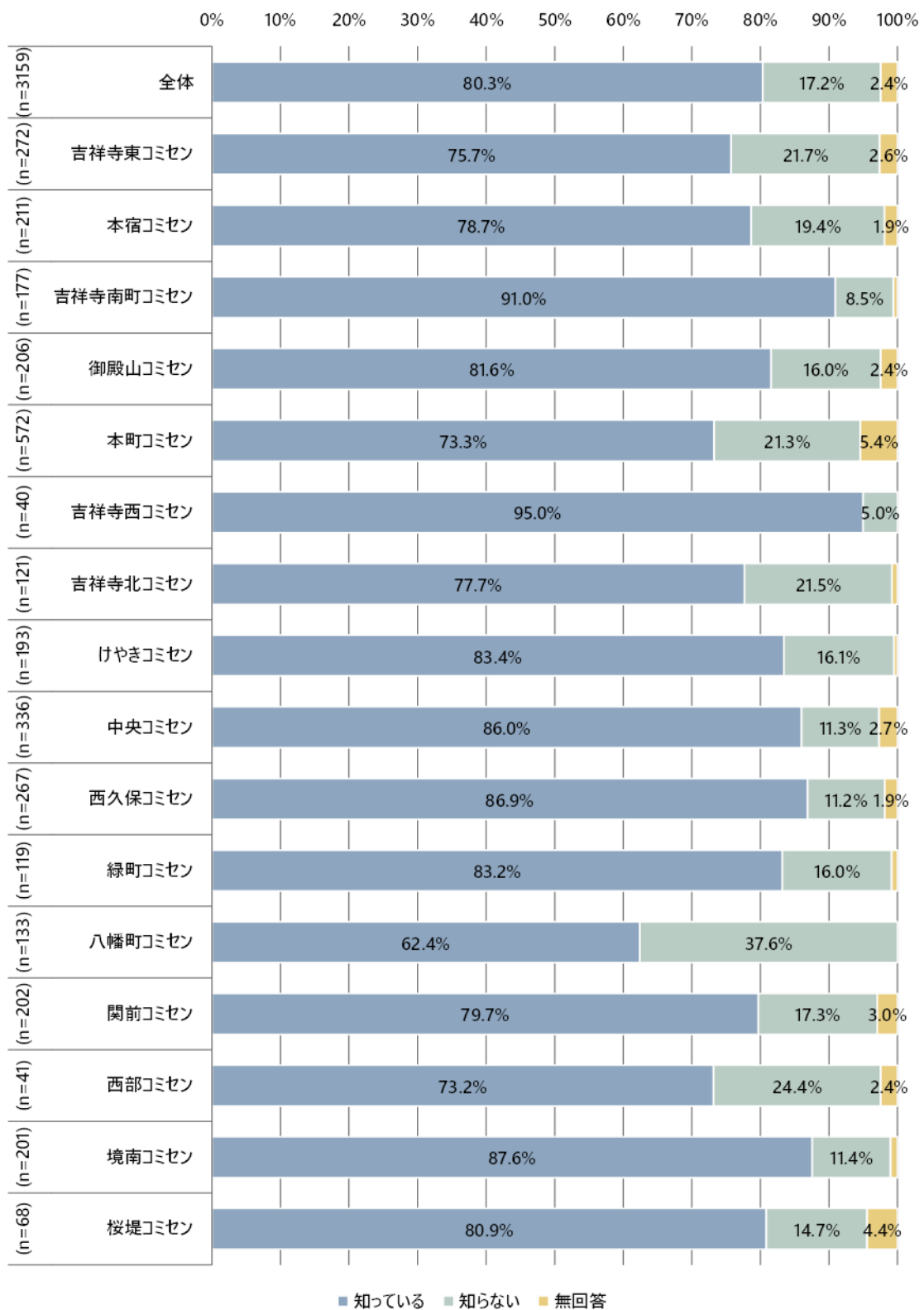
		令和6年度	令和元年度
①	窓口では、質問、問い合わせなどに適切に対応しているか 【p.17 図表 23,24】	適切 59.5% どちらかといえば適切 22.0% 計 81.5%	大変に適切 24.8% 適切 45.2% 計 70.0%
②	事業内容や利用方法など、コミセン委関する情報は伝わっているか 【p.18 図表 25,26】	そう感じる 30.0% どちらかといえばそう感じる 35.2% 計 65.2%	とてもそう感じる 9.8% そう感じる 33.7% 計 43.5%
③	誰でも公平に利用できるように心がけて運営されていると思うか 【p.19 図表 27,28】	そう思う 54.9% どちらかといえばそう思う 24.8% 計 79.7%	とてもそう感じる 24.7% そう感じる 51.1% 計 75.8%
④	利用者の意見を行事や運営に反映してくれていると思うか 【p.20 図表 29】	そう思う 33.5% どちらかといえばそう思う 32.9% 計 66.4%	—
⑤	総合的なコミセンの使いごこち 【p.21 図表 30,31】	よい 52.3% どちらかといえばよい 20.7% 計 73.0%	大変よい 33.6% よい 44.9% 計 78.5%

注釈) ②について、令和6年度は「このコミセンの事業内容や利用方法など、コミセンに関する情報はみなさんに伝わっていますか」、令和元年度は「このコミセンの管理運営に関わることなど、コミセンに関する情報は皆さんに伝わっていますか」となっており、尋ね方がやや異なっている。

図表 1 【参考】コミュニティセンターが主催・共催している行事への参加経験（一覧）



図表 2 【参考】コミセンが地域住民によって運営されていることの認知度（一覧）



以 上